

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域住民との交流の下で」という方針を踏まえ、理念を実践できるように努力している。	理念については、分かりやすく且つ共有しやすいよう平素な言葉となっている。理念を掘り下げた方針についても、地域との関わりを含めた具体的な実践に向けての内容となっている。職員会議において、理念に沿ったケアがなされているか話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	デイサービスの職員とグループホームの職員とがコミセンからの依頼を受け、地域の公民館へ向き近所のお年寄りの方と一緒に体操などを行っている。 また、自治会の会合に出席させていただき、地域の情報を教えていただいたり、運営推進会議で情報発信をしている。	自治会に加入して一年が経過し、地域の行事に参加したり、自治会員としての役割を持っている。また、地区の公民館に出向き事業所の力を活かした活動も行い、相互に協力し合い交流されている。中学生の職場体験の受け入れ、併設のデイサービスを通じて地元小学生との関わり、利用者と馴染みの近隣住民の訪問など、開かれたホームであることがわかる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方の出席の下、認知症についての解説やグループホームの役割などを説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や、質問、アドバイスをもとに改善していけるよう取り組んでいる。	行政担当者も積極的に参加がなされている。毎回スライド上映等を行い、施設の現状を分かりやすく参加者へ報告する等、工夫がなされている。	ケース検討会議もなされているが、報告が主になっているようなので、次のテーマ等を決め、その議題について考えてきてもらい話し合う等、時間を有効活用し今後の事業所の運営に役立てる事を期待します。また利用者や家族の定期的な参加へ向けての検討も期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所へ訪問し、質問や協議など連携を密に取りサービスの質の向上を目指して努力している。	介護保険担当者だけでなく、障害担当やその他の部署にも、ケースによって相談を持ちかけており、市との連携も取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束研修は、外部研修の参加や施設内研修を実施することで正しい理解を推進している。	利用者の自由を拘束する事柄について、職員で正しく理解をし、実践をしている。玄関及び、2階の出入り口の施錠は防犯上夜間のみ。外出されたい利用者に対しては、付き添い、あるいは適切な声かけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っている。地域福祉権利擁護事業と成年後見制度を利用している方がおられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明している。また、事業所の取り組みや理念なども説明し理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ハートキュア通信を毎月発行し、利用者様の日常の様子などを写真を通して提供している。また、運営推進会議へ複数のご家族様へ出席していただくよう、文書の配布を検討している。家族会を7月に開催予定としている。利用者様の個々の様子は、面会時に近況を報告したり、面会が少ない家族には電話連絡をしている。	頻回に面会に訪れる家族が多く、その都度、報告に加えて家族の意見を聞いている。担当者会議の時にじっくりと話ができるように働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の利用者の様子や言葉からその思いを察するよう努力している。毎月の職員会で全ての利用者様の状態や思いについて話し合いをしている。	職員会議では、意見が活発に出されており、職員会議に参加できなかった方には連絡ノート等を活用し、決定事項の周知にタイムラグが無いよう徹底されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の資格取得を業務研修として支援している。また、資格取得に伴う昇級などで職員の技能向上を支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の資格取得を業務研修として支援している。また、社内外研修を受ける機会を設け、技能向上を支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が外部研修で同業者の意見を聞きながら、初任者研修や部内研修を実施した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の相談があった場合は、本人にも面会し、生活状況や状態、入居前の施設への聞き取りなどを行いよりよい関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経過をじっくり伺い、また、今後どのような生活を望んでおられるのかを一緒に考えていけるよう努力している。また、緊急を要する事例があり速やかな受け入れを行った。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談が合った場合、入所することが本当に必要かどうかを検討し、その方にとって今一番よい方法がとれるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	タッチケアの手法を意識して取り入れることで、言葉だけではない「寄り添うケア」を継続して実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者様の生活状況などをお伝えしている。また、家族の方との思いが共有できるよう、報告、話し合いの機会を増やすなどの努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人と面会できるよう家族に勧めたり、家族と共に外出できる機会を調整するなど関係作りに努めている。	本人及び家族を通してアセスメントを重ね、一時帰宅の支援、旧知の友人との関わり、馴染みの美容院など、関係性の継続を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係が円滑にいくように職員は情報を共有している。時には職員が調整役になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の近況を知り、相談に乗れるような体制作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者様本人の希望を取り入れた支援に努めている。	日々、丁寧なアセスメントを実施している。会議の事前に職員の困り事などアンケートを取り、課題を明確にしている。職員一人ひとりの気づきを活かせるような話し合いが行われている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用される前に自宅を訪問したり、本人やご家族に話を伺いどのような生活をしておられたかを把握出来るよう情報シートに記載している。日々の生活の中で、変化が生じた場合には、記録の更新も行っている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	できること、できないこと、一日の生活のリズムが把握出来るような記録を取り入れている。また、状態に変化がある場合には、更に詳細な記録を取ることで、生活のリズムの変化に対応している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らしていけるよう、本人やご家族の要望を聞き、職員間で意見交換、モニタリング等を行っている。ご家族にはご本人のお薬の説明をしたり個人記録をお見せして正確に状態を把握していただけるよう努めている。	必要な関係者が参加して話し合い、介護計画が作成されている。介護計画に即したケアの実践、記録、振り返りがなされ、3ヶ月ごとに評価が行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	幾度かの記録様式見直しを経て、介護計画に基づいた記録方法にしている。また、連絡ノートを活用し、ケアの方法、気付き、工夫を職員全員が把握出来るようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、相談した上で、外出や受診の支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、民生委員、自治会、市役所、地域包括センター等との意見交換をする機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の時点で、かかりつけ医への受診を希望された場合も対応し、また、通院もご家族やご本人の状況に応じて対応している。	利用者の以前からのかかりつけ医に対して、柔軟に受診対応している。体調の異変には迅速に受診を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	准看護師資格を持った職員に利用者の健康状態を把握・相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が長引かないように病院への働きかけをすると共に、支援方法に関する情報を医療機関に提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化時の対応を説明している。その他、現在医療連携加算の算定はしていないので、ターミナルケアについては、重度化した利用者様に個別に今後についてお話をさせていただき、同意書を作成した上で対応を行っている。	利用者と家族の希望にできるだけ添いたいという意向は持っているが、現在のホームの体制において、最大できうる支援について家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時に備えて、スムーズな連携が出来るよう緊急連絡表を作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応について、消防署及び地域の消防団との連携を深めていっている。避難訓練後には、消防署の方に防災についてのお話しをしていただいたり、職員の消火訓練なども行っている。また、国富地区の民生委員さん等の施設見学の受入を行っており、管理者による施設内の説明なども行っている。	総合避難訓練を年2回実施している。地元消防団との関係作りはできているが、参加は実現していない。また、夜間における通報訓練を年2～3回実施している。3日分の水と食料の備蓄が確認できた。	今後、地元消防団、自治会、地域住民の参加・協力を得て、実地的な避難訓練も検討されるとよいでしょう。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの際、利用者の誇りや尊厳を損なわないような対応の方法を話し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞きながら支援するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースに合わせ、ゆっくりとした日常生活が過ごせるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみは、その方に合わせて整えられるよう支援している。また、なじみの理美容院への連携がとれている方もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しに一緒に出かけたり、食事の準備・片付けなども出来る方には手伝いをしてもらっている。	利用者と共に、食材の買い出しに出掛け、栄養士の作成した献立をユニットごとにアレンジし、1日3食を手作りしている。職員は弁当持参で、利用者とコミュニケーションを図りながら、食事時間を共有している。また個別の利用者に配慮したテーブル配置となっている。流しそうめん、たこ焼き作りなど、趣向をこらして利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量を記録し、不足している方については栄養ゼリーやお茶ゼリー、各嗜好に合わせた飲み物を提供し補えるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じて、自力や介助での口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所された時点で、排泄パターンをチェック表などを活用することにより把握し、紙パンツの使用を最小限に出来るよう努力している。また、利用者様の排泄サインも職員が把握しトイレ誘導もしている。	排泄パターンを把握し、一人ひとりの力量に合わせて排泄の自立を促している。丁寧に観察し、トイレで排泄できるよう支援している。必要に応じて、夜間の安全面を考慮しポータブルトイレを活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防のため、バナナや乳製品などを個人の状態に応じて提供し、自然な排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日は決めてあるが、本人に合わせた時間帯、タイミング、その日の気分に応じて入浴出来るよう柔軟に対応している。	入浴したい時間、一番風呂に入りたいなど一人ひとりの希望に合わせて、調整し、支援している。ホームの一日の流れから、午前に入浴する利用者が多いが、必要に応じて午後には清拭などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の離床時間を多くしていただき、夜は安眠できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬について、副作用や用法・用量について職員全員が把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様がしてこられたこと、いまできることを把握し、力を発揮していただけるように心がけている。また、ドライブに出かけたりデイサービスと一緒に行事に参加する機会も設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の行きたい場所をお聞きして、なるべく実現出来るよう努力している。また、ご家族様との外出や、ブドウ狩り、なし狩りなどの季節の行事を計画することにより、外出の機会を作っている。	日々の買い物、近隣の散歩、など日常的な外出の他、ドライブや外食などのレクリエーション、また家族の協力を得て自宅や、懐かしい場所への外出、外泊など、利用者の思いに添って支援している。身体的機能の低下した利用者についても、状態に合わせて戸外に出られるよう努めて働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の同意の下、少額のお金を自己管理しておられる方もある。事業所が管理している方でも、外出時には自分で出来るだけ支払いをしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという希望があれば、かけられるように支援している。手紙も書いていただき、職員と一緒に投函に出かけたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日光があたりすぎることもあるので、ブラインドなどで光の調節をしている。また、テレビを消し、音楽を楽しむ機会を設けている。テーブルに季節の花を飾り、季節感を提供している。	共有空間は、適度な広さがあり、ゆとりが感じられる。採光は、ロールカーテンで調節をしている。数々の利用者の手作り作品や季節を感じさせる生花がホーム内の随所に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にも和室やソファ、椅子などがあり、それぞれの好みで思い思いに過ごせるような環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や日用品を持ってきて貰い、本人や家族と相談しながら配置を考えている。	チェストやソファなど本人および家族と相談し、使いやすい物品を持ち込んでもらっている。本人の機能に合わせて、置き畳を使用したりしている。いずれも居心地よく整えられており、必要に応じて空気の清浄が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは大きな字で表示するなどわかりやすくなるよう随時工夫している。		